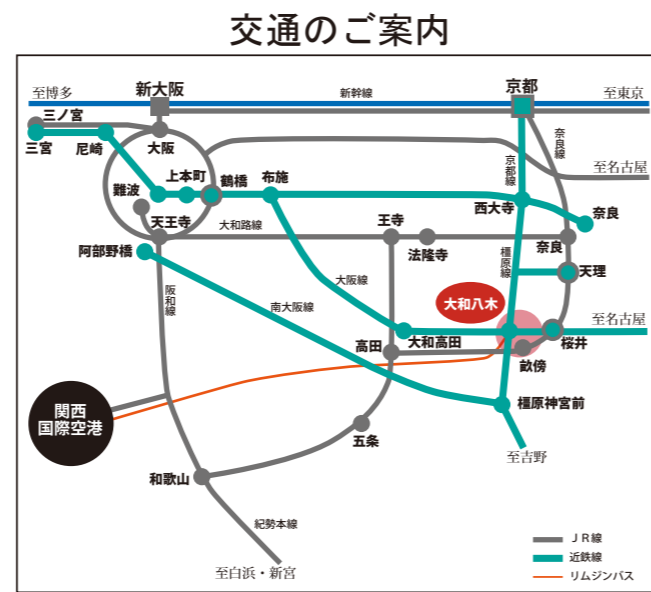


日本風景街道
「日本文化のクロスロード」

大和八木 ガイドマップ



奈良盆地の古道と札の辻



NPO法人八木まちづくりネットワーク
634-0005奈良県橿原市北八木町2丁目1番5号
電話・FAX 0744-37-0804

NPO法人八木まちづくりネットワークの活動について
詳しくはホームページをご覧ください
<http://www.yagi-net.jp/>
※お問い合わせはこちら ▶ info@yagi-net.jp

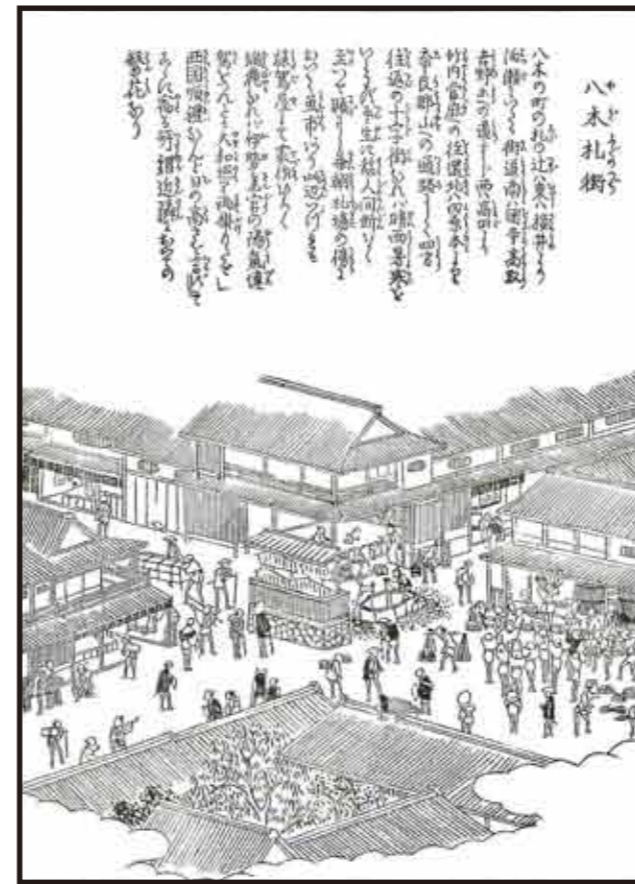


NPO 法人八木まちづくりネットワーク

八木の概要

奈良県橿原市の八木の町は古代からの幹線道路の交差点を中心に発展し、中世には町を形成していたと云われております。近世になって、高札の架かる場所となり「札の辻」と呼ばれ、商業の中心となりました。今も、この周辺には江戸時代からの歴史的な町並みが生活の場として生き続けていると共に、灯籠・井戸・旅籠の建物などの旧街道の面影をとどめる環境も残されています。また「札の辻」の往時の姿は下図の「西国名所図会」にいきいきと写し出されています。そして明治になって、八木町は鉄道駅も設置され、幹線道路も近くを通り、大和盆地中南部の中核都市として位置付けられるようになりました。

これらの歴史遺産を生かした「まちづくり」が、これからすめられようとしています。



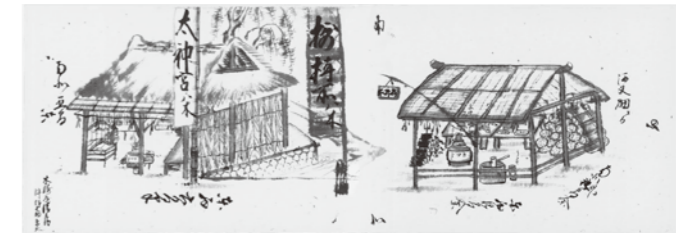
西国名所図会 八木札街

◆下ツ道と横大路

古代からの幹線道路とは飛鳥時代の古道である「下ツ道」と「横大路」のことです。下ツ道は大和盆地の中央を南北に貫く三本の古道のひとつで、東側から上ツ道、中ツ道がありました。下ツ道の北端は平城京の朱雀大路で、平城京の区画の基本となった条里制はこの道を基準につくられました。また、この道は南に行けば、高取を越えて吉野・熊野に至る幹線でした。現在も、その痕跡ははっきり残っていて、近年復元された朱雀門からまっすぐこの「札の辻」を経て、高取に至る道を地図で見ることができます。

横大路は「札の辻」を通る東西の道で、日本書紀にもあるように大坂の難波津から竹内峠を越え藤原京につながる官道で、当時は30~40m程度の幅の、いわば現代の国道1号線とでもいえる古道です。その後も大坂から伊勢へ向かう街道のひとつとして賑わいました。

◆おかげ参りと接待場（せんたいば）



せんたい場絵図（恵比寿神社蔵）

近世には、「おかげ参り」の列が横大路を通り抜け賑わいました。これらの人たちを助けるために、町の人たちが施行として食事や湯茶の接待をしました。その場所は「せんたい場」と呼ばれ、その跡は長い間町の人たちによって大事にされてきました。「せんたい場」の様子は、上図の様に、当時の町の絵師によっていきいきと描かれています。「おかげ参り」とは、伊勢信仰の気持ちを押さえきれず、仕事や家庭を放棄して伊勢参りに参加した人々のことをいいます。当時から灯籠が現在まで遺されてきましたが、危険な状態になり移転を余儀なくされました。



おかげ灯籠と金比羅灯籠

◆札の辻を通った人々

松尾芭蕉、本居宣長、吉田松陰など多くの人がこの街道を通過し「札の辻」に足跡を遺しています。芭蕉はここで泊まり次の一句を詠んだと『笈の小文』の中で述べています。「草臥て宿かる此や藤の花」



公民館前芭蕉の句碑

本居宣長は『菅笠日記』の中で吉野からの帰途、「札の辻」で当麻に行こうか、奈良見物をしようかと迷ったが、結局松坂に帰ったと記しています。吉田松陰は私淑していた八木の儒学者谷三山に会いに萩からやってきてその後江戸に向い、のちに安政の大獄で処刑されています。

◆札の辻に残ったもの

井戸と旅籠は左図の名所図会に描かれていますが、井戸の一部は車通行のため削られましたが、今も水が湧いています。その横の旧旅籠は手摺から旅人が顔を覗かせそうな雰囲気を残しています。



旅籠の手摺



札の辻の井戸



市の跡



郵便局跡の瓦

◆見つけてほしいもの

札の辻の北側は土蔵まで道が広がっています。これは市が開かれたなごりです。この町は中世には環濠で自衛していた痕跡が残っています。また珍しい瓦や駒繋ぎなど町を歩きながら探して下さい。



環濠の跡

大和八木 ガイドマップ

平成 23 年 10 月



A 奈良県立畝傍高等学校
 昭和 8 年 (1933) 奈良県立畝傍中学校舎として竣工。中央に塔を配した寺院を模した意匠が特徴。戦時下、海軍経理学校に接収され米軍機の機銃掃射を受けました。設計者の岩崎平太郎は吉野の人で著名な建築家武田五一の弟



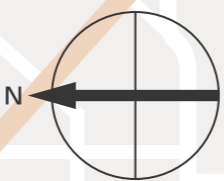
B JR 畝傍駅 (大阪鉄道畝傍駅)
 明治 26 年 (1893) 畝傍御陵参拝のため誕生しました。現在の駅舎は昭和 15 年橿原神宮紀元 2600 年祭式典にあわせて造られ、橿原神宮と同じ緋白木造が特徴です。貴賓室が備えられ、昭和 34 年 (1959) 今上天皇の御成婚報告として使用されて以来、皇室の使用はなくなりました。



C 旧六十八銀行八木支店 (登録文化財)
 昭和 3 年 (1928) 竣工、設計は元奈良県技師・舟橋俊一で、奈良県南部の現存する最古の鉄筋コンクリート造の一つです。銀行としての使命を終え結婚式場として再出発することになりました。

凡例

- 伝統的建造物
- 近代建築
- 案内板・説明板
- 碑
- 古代の幹線道路
- 環濠跡



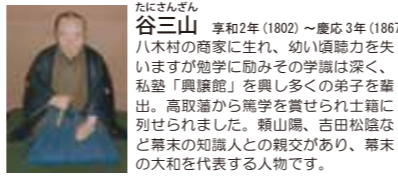
1 平田家 (西)
 近世には「きわらや」という屋号で、旅籠としてにぎわいました。二階への大階段もそのまま残っています。



2 平田家 (東) 市指定文化財・改修中
 西国名所図会正面に描かれている旅籠で二階は昔のまま残っています。明治には多くの会合の舞台となりました。



3 谷家
 幕末の儒学者谷三山の生家でここで生涯を過ごしました。今も残る貴賓口から駕籠で高取藩御進講に出かけました。



たにさんざん
谷三山 享和 2 年 (1802) ~ 慶応 3 年 (1867)
 八木村の商家に生れ、幼い頃聴力を失いますが勉学に励みその学識は深く、私塾「興譲館」を興し多くの弟子を輩出。高取藩から篤学を賞せられ土籍に列せられました。頼山陽、吉田松陰など幕末の知識人との親交があり、幕末の大和を代表する人物です。



4 福島家
 高取藩の下屋敷として、参勤交代の起点となった家で御殿部屋が残っています。享保 10 年 (1725) の棟札があります。



5 国分寺
 本尊の十一面観音立像 (国重文) は藤原時代作。近年燃失した本堂は明治時代の小学校「培擁館」として使われました。



6 金台寺
 蓮如の弟子・了妙尼が開いた寺で、蓮如もここを訪れています。江戸時代の寺子屋でした。



7 おふさ観音
 (高野山真言宗別格本山観音寺)・土地の娘「おふさ」がこの地で観音様をまつたことに由来します。儒学者前部重厚の頌徳碑 (しょうとくひ) はこの境内にあります。